

石井国土交通大臣が神戸港を視察されました。

6月5日(日)石井啓一国土交通大臣が、就任後初めて神戸港ポートアイランドPC-18コンテナターミナルを視察、ガントリークレーンの運転室に搭乗され、その後国際コンテナ戦略港湾「阪神港」について関係者と意見交換をされました。

意見交換会で石井大臣は、「阪神港は官民一体で国際戦略港湾の取組みを進め、具体的成果も上がりつつあるとのことで、関係者に感謝する。視察や意見交換を通じて阪神港の競争力強化のために努力したい。」とごあいさつされました。

当社からは、犬伏会長が「当社が設立されてから1年半余りが経過。神戸港・大阪港ともに発展の経緯や歴史が違ふ中で、『一つの港』として一体の機能をどう発揮するかに注力している。」と述べ、川端社長からは、国の無利子貸付による岸壁の大水深化や高規格ガントリークレーンの整備・更新、またガントリークレーンの一括発注によるコスト削減、大阪港C-9の整備事業、西日本と阪神港を結ぶ内航フィーダー航路の増加などを報告しました。

神戸市の久元市長は、神戸港では昨年内貿・外貿合わせて約270万TEUと阪神大震災後最高のコンテナ取扱量を記録、その要因は内航フィーダー貨物の増加と東南アジアとの貿易量が前年比15%の伸びを見せたことであると説明されました。さらに大阪市の田中副市長から大阪港の港勢について、昨年のコンテナ取扱量は222万TEU、そのうち外貿コンテナ取扱量が中国経済の影響などで前年比9%減の197万TEUとなったが、今年3月～4月に回復の兆しを見せているとの説明がありました。



これらの発言を受け、石井大臣からは神戸市・大阪市の努力を評価するお言葉をいただきました。

右から久元神戸市長、石井国土交通大臣、
久保日本港運協会会長、当社犬伏会長、当社川端社長